

美經記中一しき言ひり奥州初任の系下
に^{按ずるに思荷の}あまの大神軍をばをりの方丈とやう
る孫ちとく一被^{あま}が一人の子一人といふあり嫡子
系屋川の次弟貞任二男も海三弟宗任の
こころ^{あま}重任としてとる

東鑑より井原貞任宗任官照^{あま}正任初任
一古郎に如子三人あり初任重任といふもの見
へむ初任をはユキタフと云字あり美經記
を見れば行をノリと唱ふとこよや初任
傳の説を見れば美經記と又齟齬も

又後平記法軍重圍結城^{あま}の事系下結城
の系は属^{あま}する傳は小麻呂とあり又兼久
記は奥の岳の碯橋を傳つといふもの冥東
勢の因は見えたり何れも思荷の末よりて
尚館は^{あま}指任しとるや思荷男麻小麻岳
ホカ系書之^{あま}美經記を見らにをりの方丈と
云一ハ安倍貞任おの親之安倍初傳の説
を合考れむを代と秋田を伝をくれとる
城め^{あま}傳も^諱思荷の末なる一ハ安倍傳説
は神武天皇い傳と中は入あひさる先